

令和 4 年 9 月 3 日現在

機関番号：32630
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2017～2021
 課題番号：17K04100
 研究課題名(和文) 沖縄独立研究と琉球社会憲法の国家観 沖縄県人・県系人にみるトランスナショナリズム

研究課題名(英文) The Study of Okinawan Independent Movement and the Image of the Nation State in Constitution of Ryukyu Republic Society: Transnationalism in Okinawan People

研究代表者
 西原 和久(Nishihara, Kaxuhisa)
 成城大学・社会イノベーション学部・名誉教授

研究者番号：90143205
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)： 研究課題の沖縄独立研究や琉球共和社会憲法の国家観に関しては、東アジア共同体論との関係で、かなり高レベルの成果が得られた。それらは、沖縄独立論者・松島泰勝氏と琉球共和社会憲法草案者・川満信一氏、この両者を中心に多数の関係者への聞き取り調査等から多大な知見を得たからである。それらは論文や著書となって示されている。

だが、県系人のトランスナショナリズムに関しては、ハワイ調査やペルー調査で知見を得たが、2020年度からのコロナ禍で現地に行けず、研究の延期措置をとった。だが2022年春まで改善されずこの面での研究は断念し、代わりに東アジア共同体論研究に焦点化し、この面で大きな成果を得たと判断している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

沖縄独立研究に関しては、独立研究学会等が成立し国連との関係もかなり具体的見通しが論じられた点と、琉球社会憲法に関しては、近代国民国家の限界が語られ国家間戦争が現実化する中で、共生と連携による平和構築をリージョナルに志向する点、以上の2点に関して著書・論文等で明確にしてきた点は、現代的課題への学術的意義があると考えている。

研究の社会的な意義は、沖縄返還50周年の節目に、論じられてきた独立論や憲法論が具体的な未来像として再度語られ始めている点に、意義が認められると判断している。本研究からリージョナル、グローバルな平和構築のための社会構想だという点も明確となり、学術的・社会的な意義が大いにある。

研究成果の概要(英文)： This study achieved a high level of achievement with regard to the studies on Okinawan independence problems and the future image of the modern nation state in a draft of Constitution of Ryukyu Republic Society, especially in relation to the discussion of the East Asian Community. These studies have produced great result by sociological research including interview research with Yasukatsu Matsushima, an advocate of Okinawa's independence, and Shinichi Kawamitsu, an inventor of the draft constitution of Ryukyu Republic Society. These achievements are made public in the form of academic papers and books.

However, due to the COVID-19, I could not go to the field works and I had to go through the procedure to postpone the research period in 2020 and 2021. But unfortunately the situation was not likely to improve by the spring of 2022, therefore instead I decided to focus on the research of the East Asian Community, and I have achieved significant results in this area.

研究分野：社会学

キーワード：沖縄(琉球)独立 琉球共和社会憲法 東アジア共同体論 トランスナショナリズム ハワイ沖縄系住民 川満信一 平和問題 基地問題

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究「沖縄独立研究と琉球社会憲法の国家観 沖縄県人・県系人にみるトランスナショナリズム」の2017年度開始当初の背景には、2013年に「琉球民族独立総合研究学会」が発足し、2014年に著作『琉球共和社会憲法の潜勢力』が刊行され、2016年に那覇で5年ごとの「第6回世界のウチナーンチュ大会」が開催され、同年「東アジア共同体・沖縄(琉球)研究会」も発足したという諸点がある。「沖縄独立」論と「琉球社会憲法」案と略記した本研究の背景は、沖縄県人・県系人が深く関わるこうした動向を踏まえたものである。なお、個人的には2015年度後半のハワイ大学社会学部への在外研究時に、「ハワイ沖縄連合会」や毎年実施される「オキナワン・フェスティバル」の調査研究も背景をなしていた。

2. 研究の目的

研究開始当初の目的は、沖縄(琉球)独立研究と琉球共和社会憲法の国家観の研究、およびハワイ(およびペルー)への沖縄移民に由来する沖縄県系人のトランスナショナルな社会意識の研究であったが、コロナ禍でこの科研費研究の仕上げの段階での海外調査が不可能となった。それゆえ、沖縄関係者のトランスナショナルな未来社会像としての東アジア共同体論の研究を当面の暫定的な目的とするという変更を余儀なくされた。とはいえ、研究期間延長後の2年間も、コロナ禍は継続したため、の目的に代えて、のこの東アジア共同体論研究が、最終的に第2の研究目的となって研究が進められた。

3. 研究の方法

研究の方法は、(1)独立論や憲法案などの関係者・当事者へのインタビュー調査、および(2)関連する文献・資料の検討、そして(3)オキナワン・フェスティバルや各種集会(研究集会を含む)の参与観察、が当初の研究方法の柱であった。ただし、コロナ禍においては、ハワイ等の現地でのインタビュー調査や一部の参与観察が不可能となり、上記の研究目的の変更に対応するかたちで、東アジア共同体論関係者へのインタビュー調査や文献資料調査および関連研究集会等の参与観察が研究方法の柱の一つとなった。

4. 研究成果

研究成果は、著作レベルで記せば、単著として、2018年の『トランスナショナリズム 論序説 移民・沖縄・国家』(新泉社)や2020年の『現代国際社会学のフロンティア

『アジア太平洋の越境者をめぐるトランスナショナル社会学』（東信堂）、2021年の『グローバル化する社会と意識のイノベーション 国際社会学と歴史社会学の思想的交点』（東信堂）が挙げられる。しかしこの間にも、この科研費調査研究の成果として、論文、共編著、各種学会報告、講演などにおいて、個別の成果を公開してきた。そしてとくに、そうした論文レベルでの成果は、2022年3月に本科研費の報告書として『沖縄から学ぶ社会思想とトランスナショナリズムの展望 いま平和社会学の構築に向けてアジアで問うべきこと』にまとめた。「第1部：沖縄の独立案と憲法案」、「第2部：トランスナショナリズム論と問主観性の理論的射程 東アジアを念頭に入れて」、「第3部：日本社会学におけるトランスナショナルな視点を探る」、「第4部：トランスナショナル社会学とグローバル研究」、「第5部：東アジアからのグローバルな視線 沖縄・砂川から問う基地と平和」、「第6部：いま東アジアの平和に向けて考えるべきこと」の6部構成で、全12章、補章6、付章2、からなる。

こうした成果の主要点を3点だけ簡潔に述べると、以下のようにまとめられる。

- 1) 未来の社会構想においてトランスナショナルな共生や連携の発想（脱国家的志向）がきわめて重要なこと、
- 2) そのためにはグローバルな（ローカル、リージョナル、そしてグローバルな）平和な社会の構築が大前提とされること、
- 3) こうしたグローバルな視点を持った社会構想や平和構築への試みは、戦後日本社会学では十分に検討されておらず、この点の研究の進捗が望まれること、

以上、3点である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西原和久	4. 巻 -
2. 論文標題 相互行為論と社会学的国家論の交点とその先 琉球 / 沖縄からの社会学理論的展開へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中村文哉・鈴木健之編『行為論からみる社会学 危機の時代への問いかけ』（晃洋書房）	6. 最初と最後の頁 211-233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 1巻
2. 論文標題 沖縄の社会思想と東アジア共同体論 川満信一と琉球共和社会憲法の生成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東アジア共同体研究所 琉球・沖縄センター編『沖縄を平和の要石に 地域連合が国境を拓く』（芙蓉書房出版）	6. 最初と最後の頁 156-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 9
2. 論文標題 沖縄と東アジア共同体という問題圏 リージョナリズムとトランスナショナリズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コロキウム：現代社会学理論・新地平』9号	6. 最初と最後の頁 89-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 -
2. 論文標題 トランスナショナリズムとリージョナリズム 沖縄発・東アジアの連帯はいかにして可能か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国社会学会・中日社会学専門委員会編：会議論文集	6. 最初と最後の頁 .275-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhisa Nishihara	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 Intersubjectivity and Transnational Phenomenological Sociology: An Essay on Social Empathy in East Asia from the Viewpoint of Okinawan Issues	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Asian Sociology	6. 最初と最後の頁 53-69.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 6
2. 論文標題 沖縄と東アジア共同体論へのリージョナルな問い トランスナショナル社会学と現象学的社会学とのグローバルな交点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル研究	6. 最初と最後の頁 131-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhisa Nishihara	4. 巻 13
2. 論文標題 The Challenge of Okinawan Social Thoughts: Okinawan Glocal Network and Independence Movements after the Ryukyu Kingdom	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Glocal Perspectives on the Contemporary Socio-Cultural Movements, edited by K. Nishihara, Seijo CGS Working Papers Series	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 12
2. 論文標題 現代社会学のラディックス 作田と見田における戦後日本社会論と他者への問い	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代社会学理論研究	6. 最初と最後の頁 130-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 5
2. 論文標題 日本社会学と沖縄問題 トランスナショナリズムと東アジア共同体という視角	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル研究	6. 最初と最後の頁 89-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhisa Nishihara	4. 巻 48巻1号
2. 論文標題 Intersubjectivity and transnational Phenomenological Sociology: An essay on social empathy in East Asia from the viewpoint of Okinawan Issues	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Asian Sociology	6. 最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 6号
2. 論文標題 沖縄と東アジア共同体論へのリージョナルな問い トランスナショナル社会学と現象学的社会学とのグローバルな交点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル研究	6. 最初と最後の頁 137-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 3
2. 論文標題 東アジア共同体論への社会的課題と実践論的課題 砂川そして沖縄から学ぶ脱国家的思想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東アジア共同体・沖縄(琉球)研究	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 1号
2. 論文標題 沖縄の社会思想と東アジア共同体論 川満信一と琉球共和社会憲法の生成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年刊ジャーナル 沖縄を平和の要石に	6. 最初と最後の頁 156-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 5号
2. 論文標題 東アジア共同体形成の意義と課題をめぐる考察 木村朗氏との対話を手掛かりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア共同体・沖縄(琉球)研究	6. 最初と最後の頁 18-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西原和久	4. 巻 17巻2号
2. 論文標題 社会学研究における「平和」という課題 戦後日本社会学史に触れて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会イノベーション研究	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 8件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Kazuhisa Nishihara
2. 発表標題 Intersubjectivity and Empathy: How is Transnational Solidarity possible?
3. 学会等名 International Conference on Cultural Dynamics of Social Empathy (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhisa Nishihara
2. 発表標題 Colonialism and Globalism: On Modern Japan and Internationalization of Japanese Sociology: Sociology of Knowledge on Okinawa and the East Asian Community
3. 学会等名 International Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西原和久
2. 発表標題 トランスナショナリズムとリージョナリズム 沖縄発・東アジアの連帯は
3. 学会等名 中国社会学会(中日社会学専門委員会)年次大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西原和久
2. 発表標題 沖縄と東アジア共同体論 トランスナショナルなグローバル研究の意味
3. 学会等名 成城大学グローバル研究センター主催シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhisa Nishihara
2. 発表標題 Okinawa and the East Asian Community: Past Present, and Future in North
3. 学会等名 East Asian Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhisa Nishihara
2. 発表標題 Socio-Political Opinions to China and Korea in Contemporary Japan: With a special attention to Okinawan Problems
3. 学会等名 The Institute for Asia Strategy (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuhisa Nishihara
2. 発表標題 Japanese Sociology and Okinawan Problems: Giving attention to the perspectives of East Asian Community and the theory of Transnationalism
3. 学会等名 The Center for Glocal Studies (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西原和久
2. 発表標題 現代社会とアート：トランスナショナリズムとコスモポリタニズムという視点からの問い
3. 学会等名 成城大学グローバル研究センター (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西原和久
2. 発表標題 トランスナショナリズムとリージョナリズムからみたコスモポリタニズムの位置と意味 移民・沖縄・国家、そして東アジア共同体
3. 学会等名 日本社会学理論学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhisa Nishihara
2. 発表標題 Okinawa, Military bases, and the East Asian Community
3. 学会等名 Jeju Forum 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西原和久
2. 発表標題 東アジアのトランスナショナルな人際交流 共生・平和・連帯のために
3. 学会等名 中日社会学会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 西原和久	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 410
3. 書名 トランスナショナリズム論序説 移民・沖縄・国家	

1. 著者名 西原和久	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 101
3. 書名 現代国際社会がkjのフロンティア アジア太平洋の越境者をめぐるトランスナショナル社会学	

1. 著者名 西原和久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 239
3. 書名 グローバル化する社会と意識のイノベーション 国際社会学と歴史社会学の思想的交差	

1. 著者名 西原和久・杉本学編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 340
3. 書名 マイノリティ問題から考える社会学・入門 差別をこえるために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------